

実習報告

国立国会図書館関西館

9月5日から9月12日の6日間、国立国会図書館関西館で実習をさせていただきました。実習生は私を含め4人でした。

1日目は、オリエンテーション後、図書館協力課交流係・協力ネットワーク係・調査情報係の業務説明を受けました。レファレンス協同データベースのデータ登録・選択実習、カレントアウェアネスサービスの1つであるCA-R記事の作成をしました。

2日目は、収集整理課、障害者図書館協力課の業務説明を受けました。逐次刊行物受理作業、和図書受理作業、代替テキスト作成作業もしました。

3日目は、電子図書館課の業務説明を受けました。実習は著作権処理作業に関する内容で、著作物・著作者の特定、著作者の没年調査を経験しました。

4日目は、文献提供課、アジア情報課の業務説明を受けました。実際に体験したのは文書レファレンス実習で、資料の所在確認をしました。

5日目は、文献提供課閲覧係・複写貸出係の業務説明を受けました。書庫内見学、遠隔複写申込の資料出納作業は、複写申込書に記載されている箇所を特定し、しおりを挟む作業を行いました。複写箇所特定作業は、複写箇所が著作権上問題はないか確認作業を行いました。学術文献録音DAISY資料の音声・操作確認作業、カレントアウェアネスの記事原稿の校正・校閲作業をしました。

6日目は、国際子ども図書館と、報告会を行いました。報告会では、①実習を通して学んだこと、感想、②印象に残った業務、実習、③国立国会図書館に向けた提案について発表しました。

様々な実習をさせていただいた中、最も印象に残っているのが、代替テキスト作成作業です。図や写真等を同等の情報の言葉で説明したものが代替テキストです。作成を実際にさせていただき、予想以上に手間と時間がかかる作業だと感じました。また言葉のみで伝えることが難しく、理解してもらえるようにシンプルに、言葉をまとめるのですが、伝わりやすいかどうかは別問題であることも、作成した代替テキストの発表をした際に思いました。

6日間の実習で貴重な経験を積む事が出来ました。図書館の仕事は、多岐にわたって情報を網羅し理解しておくべき事が、必要になると実感しました。その為にもまず自分が積極的に学び、応えられるように備える必要があり、向上し続けることのできる仕事であると思いました。実習で得られた多くの知識や気づきを、更に深め今後の学習に生かしていきたいと思えます。

(上田 楓子 心理学科4年次生)

実習報告

国立国会図書館国際子ども図書館

私は国立国会図書館国際子ども図書館で、6日間実習をさせていただきました。1日目はオリエンテーションとして国立国会図書館の説明などをして頂き、館内見学や各部署への挨拶なども行いました。午後からは企画協力課の具体的な業務に関する説明をして頂き、団体用のパンフレットの用意やニュース記事の作成を行いました。

2日目は資料情報課の業務説明と分類作業などの実習を行いました。資料情報課は主に児童書研究資料室の資料を扱っている部署です。国立国会図書館なので、納本制度によって日本の児童書は自動的に収集されますが、洋書や児童書関連資料は選書を行っています。その選書基準が特徴的であり、客観的に評価の高い資料を集めています。そこから国立国会図書館として、中立の立場を重んじている事を改めて認識しました。

3日目は児童サービス課の業務説明と分類作業などの実習を行いました。この日は小学生以下を対象としたサービスの業務説明と実習を行いました。実際に分類作業をさせていただきましたが、子ども目線で考える分類というのが難しく、様々な発想の転換が大切なのだと再認識しました。

4日目は2度目の資料情報課での実習でした。前回は資料の選書や装備など間接サービスについて学び、この日は直接サービスの範囲を実習させていただきました。具体的にはレファレンスサービスと出納・納架業務です。このレファレンスサービス実習は、6日間の実習の中で最も印象に残っている実習です。ストーリー・レファレンスと呼ばれるサービスであり、利用者のあやふやな情報から特定の資料を探し出す難しさから、見つけた時の達成感は格別で、非常に楽しかったです。

5日目は2度目の児童サービス課での実習であり、この日は中高生向けの業務実習として、小展示の作成と「調べもの体験プログラム」の体験をさせていただきました。この「調べもの体験プログラム」は、中高生に図書を使った調べものを体験してもらうものであり、インターネットで調べても見つけにくい問題となっているのが特徴でした。

最終日の6日目は、同じ日にちで実習を行っていた、国立国会図書館関西館と合同で報告会を行いました。自身の実習を振り返る良い機会となり、国立国会図書館の事を深く知ることの出来た実習であったと感じました。また、これまで授業で学んできた知識の定着と、まだ足りていない部分を再確認する事の出来た実習でした。

(大塚 瑞 国際日本文化学科4年次生)